



こうちゅうひ
孔 宙 碑

一六四年（後漢・延熹七年）

金石书画拾遺(22)

木 雜

こうちゅうひ
孔 宙 碑

木 雜 室

伊 藤 滋

『漢泰山尉孔宙碑』という。
孔宙は孔子の子孫であり、家学を修め
泰山都尉の官職についた。その孔宙の
徳政を故吏や門人が贊えた碑である。
この碑の文字は、漢碑の中にはてて
や大きい。清末の楊守敬は、「八分の

正宗にして、一字として飛動せざるなし。
一字として規矩にあわざるなし
(隸書の本流であり、碑の全体の文字
が生き生きとして、文字の一点一画に
古典的な深みが有り、すべての文字が
隸書の書法に合っている。)と評して
いる。点画に古厚な趣があるが、やわ
らかで流麗な八分隸に属するであろう。
原碑は、山東・曲阜の孔廟にある。家
蔵拓本は、二十代の終り頃、偶然に入
手した。末に伊秉綏の銀泥による跋文
が付されている。保存の佳い旧拓本と
いえようか。



跋文（伊秉綏銀泥による）



書道藝術院 創立発起人 (19)

「頑」



国井誠海先生は、大正2年山形市の生まれ。鈴木翠軒門現役作家の最古参で、戦前から戦後の23年間にわたって師事したといわれる。

作風では師より教示を受けるも並流たることを潔しとせず、現代書の開拓に情熱を注いで、一字書や漢文書に新境地を開かれている。郷里山形市に先生の記念館を開設し、誠心社代表を務めておられる。今年の2月、書道藝術院、60周年記念祝賀会の席上ご挨拶をいただいて感銘を受けた。小生の学生時代、誠墨社発行の雑誌「誠墨」を手に入れ、一生懸命に練習したことが懐かしく思い出される。

先生は、現代書のバイオニアとして5年近く、卒先してやつてこられた。

造形性の高い本物の現代書をつくっていきたいとの希望をもたれ、現在、産経展の審査会員、海外ではフランス（パリ）・アメリカ（ニューヨーク・サンフランシスコ・ロサンゼルス）などでの個展26回開催、産経国際書展を創立された。

現代書の普及振興による実績を文化庁が表彰、現代書の若手作家育成のため、文化庁所管公益基金「誠海賞」を設立されている。（作品は頑、かたくなな生き方の意。頑固に生きる堅実な生き方を造型する。）（山下皓映記）

国
井
誠
海

書のひろば

理事長 恩地春洋

書道芸術院の六〇年

創立60周年、前衛の芸術院として戦後書壇に旋風を巻き起こした本院は、財団法人書道芸術院として日本有数の書道団体に成長してまいりました。

書道団体に成長してまいりました。昭和20年（一九四五）第二次世界大戦に敗北、国家主義から民主主義へと一八〇度転換しました。国も社会も困乱疲弊し、苦難の中で全国の書家が団結、昭和21年（一九四六）再建日本書道美術展が上野公園内東京都美術館で開催されました。審査結果や将来の在り方に意見の相違があり、昭和22年（一九四七）には、「芸術は自由」を叫んで書道芸術院が結成されました。主張の相違から、更に奎星会、独立書人団、回潤などが袂を分かちました。

以後、苦難の書道芸術院は、創立の精神を尊重し、芸術の自由を守り、相互扶助に努め、難局を切り開いてきました。香川峰雲、春蘭、大澤雅休、竹彩、中島邑水、中村庸一郎、薰風、石井雙石、和井田要、川崎梅村（のち白雲）、加藤翠柳、深松海月、岩垣翠城などへの献身的努力によって、互いの長

戦後、昭和27年（一九五二）、日本で最初の海外展を、ニューヨーク近代美術館で実施以来、院は書の海外交流にも力を入れています。書が世界に通じる美術であるという実証のためにも書が日本や東アジアを代表する芸術である確認のためにも、海外交流は重要です。五年毎の記念海外展をベースに、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの諸国で開催してきました。その中で、川崎梅村先生の二か月にわたるアメリカ各地の書・紹介活動と巡回展、種谷扇舟先生の70数回にわたる訪中と書碑の研究、白扇会の長期にわたって中国との文化交流書展の開催、谷脇梅翠さんと四国支局によるウイーン大使館広報文化センターでのすっかり定着したワーケンショップと書展、戦後60余年、書の交流も、専門家レベルから、すっかり国民レベルの交流となつた感がします。

所と個性を尊重し、助けあって、新しい書の運動、書教育、国際交流など広い分野にわたって活躍する総合団体となりました。

学校教育に関しては、姉妹団体として、「全日本学校書道連盟」を創設し、日本で最初の半紙展や条幅展を開催しました。現在59回展を終え、来年は60回展です。次の世代を担う後継者育成のために、学生「書の教室」、「一般書道芸術」を発行、少子、高齢化の中での、院の精神を継承していくように努めています。

を築いてくださった香川峰雲先生の自傳で、神田事務所に移転以来、院の自らの活動のために、13の総局、支局を創立し、漢字、かな、現代詩文書、前衛書の五部を持つ総合研究所としての形を整え、更に会員の相談のための講習会など、現在の書道の研究態勢を確立した種谷扇舟先生の功績も忘れてはなりません。60周年記念事業は、「役員作品巡回展」と「各総局・支局展」を併催して好評、総局・支局の結集のためにも、相互学習のためにも重要な役割を果たしています。

海外展は、アイルランドのダブリンと、ウイーンで開催されました。特に書展は始めてといふダブリン展の書展は勿論、ワーグンショップは大好評で一回実施

記念誌には、今回、六年にわたりて選考した「推薦作家」の現在の作品を紹介しましたが、院の次代を背おつてくれる作家集団であることに違いありません。

尚、55回記念誌には、書道芸術院創設の頃の書家の動きを見ることのできる貴重な資料が掲載されておりますので念のため申し添えておきます。

27 純口三がり
27 純いがり
けて書道芸術院を舞台に作家活動を展開された先人に感謝の誠



第36回 書道芸術院展審査役呂

を捧げます。

最後になりましたが、記念事業の計画、準備、実施に当たり、ご協力いただいた

しあわせのまち
平成19年(2007)10月

昭和58年1月22日

現代詩文書 (一)

廣瀬舟雲



第42回毎日書道展 会員賞受賞作品

廣瀬舟雲書

二十一世紀の新しい書をめざして
私たちは、どのようなことを考え、
制作して行つたらよいのでしょうか。
「私の主張」というテーマで執筆
せよということですので、未だ試行
錯誤の段階ですが、私の試みをここ
に述べます。

「自分の書きたい現代の言葉を現代
に生きる自分自身の書表現で表わす
ことができる。」これが現代詩文書
の醍醐味です。

しかし、初步の頃なら致し方ない
ですが、私たちは展覧会のたびに好
きな詩文を選んで、ただ揮毫するだ
けでよいのでしょうか。好きな詩文
を選ぶことは当然としても、その選
定方法にこだわりを持ち、揮毫する
時も一つの書風や型に安住すること
なく、常に何か問題意識を持ち、実
験してみるとことが大切だと考えます。
それが新しい書の創造・開拓に結び

付くと思うからです。
私の1990年代は、「自作のことば」こそ現代
詩文書の本領と考え、自身
や身辺に起こった出来事を題材としました。

つまり私は作品イコール
日記を標榜し、日本の名勝
地への旅は格好の題材とな
りました。

その時の感動を書にした
作品の一つが写真のもので
す。時に竜巻、地震などい
わゆる天変地異が起ると、
その強大なエネルギーが私
の心を揺り動かし迫力のあ
る作品を生む原動力ともな
りました。

私にとっての前衛書の主張とは、
どのようなものなのか難問である。
前衛書には規則、決まり事はあ
りません。しかし、書道から生ま
れたものであり、墨、紙、筆など

前衛書 (一)

阿部蕙芳



「悠久」

書道芸術院
三人展出品
阿部蕙芳書
(90×180cm)

私の魅力が根底にあり、それらの魅力に
包まれながら、皆さん作品制作をされ
て居られると思います。
私は現在、日本画用平筆を使用して
いますが、単純線しか出にくい中で、
自分の想いを表現することの難しさが
魅力となっています。

出来上った作品には、その瞬間を表
現した想いを込めた題名を付けて、初
めて文字となります。その為、どんな
内容にするか、制作前に大枠の構成を
考へ、大意であるがその後の題名とな
る想いを纏めます。その為の時間が結
構かかります。

書道芸術院・三人展に東素子先生、
福島李舟先生とご一緒した時の作品で
す。その時、三人で話し合い、課題を
統一内容にすることに致しました。
その課題は、自然を省みない現代社
会に対し、自然に生かされた命、人間
存在に思いを新たにし、自然への思い
を作品にしたものでした。



〔解説〕
薦季直表は、黄初2年(221)8月、
鐘繇が魏の文帝に奉った上表文で、太
祖曹操の創業時に功績のあった関内侯
季直という人を推薦したものである。

この真跡は元のとき陸行直の家に入り、
やがて明の沈周が得て、次いで華夏の
有に帰し、真賞斎帖に刻されて有名にな
った。真跡はやがて清朝内府に入り、
三希堂帖の首巻に収められたが、さら
に裴氏壮陶閣に渡り、その書画録に載つ
ている。

(編集部)

鍾鐘薦關內侯季直表
臣繇言臣自遭遇先帝忝列
腹心爰自建安之初王師破賊
關東時年荒穀貴郡縣殘
毀三軍餽饑朝不及夕先帝
神略奇計委任得人深山窮谷
民獻米豆道路不絕遂使強

〔注〕
漢字研究部競書作品は、
左の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)
※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

古筆鑑賞

④

かな研究部

こじまぎれ 小島切 (伝小野道風)

① 用紙・半紙普通判(料紙可)
〈たて長に使用〉・別紙を裁断して貼付は不可。
※落款を必ず入れる。署名、
もしくは○○臨
(押印のみ可)

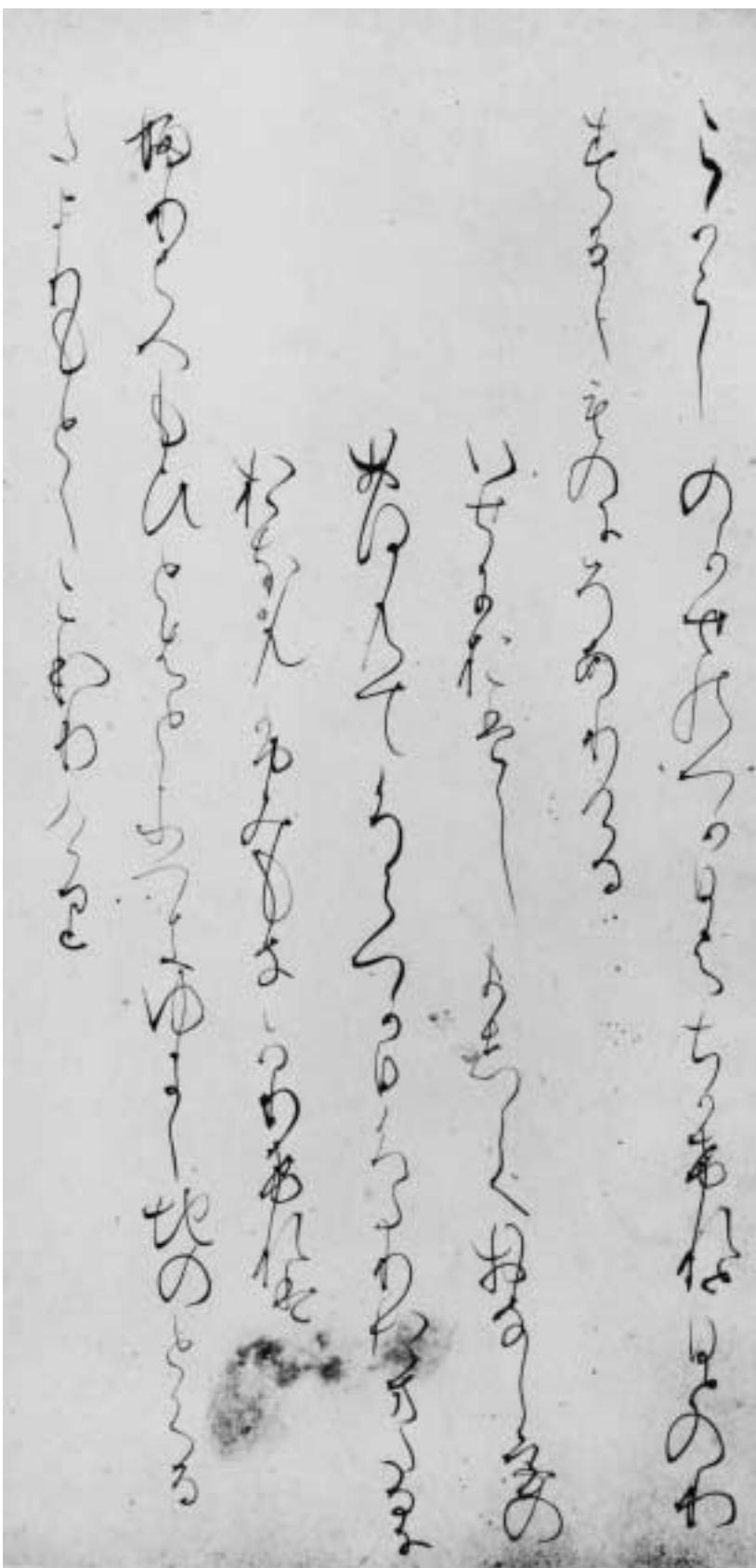
よみ

こが(可)らしのか(可)ぜの(能)つか
(可)ひ(日)は(者)ちか(可)け(希)れど
ひ(日)とのわす(春)るゝも(毛)のに
(尔)ぞ(曾)あり(利)け(介)る
いせに(尔)お(於)は(盤)しまし(志)て
(亘)おな(奈)じ宮のおほ(保)んてぐ
(久)らづか(可)ひ(日)く(久)だ(多)り
け(介)り(里)

解説

奈宮女御徽子の家集。粗い雲母散き
の鳥の子紙に、紫、藍の麗しい飛雲も
(紫と藍の纖維を、あたかも雲が浮か
ぶように散らしたもの)を配した料紙
に書写される。もとは粘葉装の冊子本。

書風は、鋭く細い線質が印象的で、
突きささるような確かな転折から弾き
出される軽やかな流动性が、小島切の
美の主軸をなす。
(編集部)



注=右の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

漢字規定 初段以上 【十一月二十日締め切り】 用紙 半紙普通判

最首翠風選書

習い方解説 (一)

最首翠風

山高水長

芸術の秋です。さまざまな展覧会に挑戦する方も多いでしょ。

半紙という形式は、いわばホームグラウンドのようなもの。落ち着いた気分で楽しんでみましょう。

ここに示した手本は、あくまで

も参考です。「学ぶ」は「まねぶ」から来た言葉ですから勿論、真似

て書くことも勉強ですが敢えて書

体、書風を変えるなどの工夫に挑

んでください。その為には日頃の古典学習が大切です。先頃開催さ

れた「いまに生きる金子鷗亭の書」に添えられた鷗亭先生の言葉を次

に記しておきます。

——古典の中に残っている所の最大公約数を自分の肥料にする。太陽にする。水にする。自分の栄養をとり、あとは捨ててしまうのです。——以下略

山高水長 よみ（山高く水長し）

書体＝自由



漢字規定秀級以下【十一月二十日締めきり】用紙半紙普通判

稻垣小燕選書

習い方解説 (一)

稻垣 小燕

明月清風
(めいげつせいふう)

皓々と輝く秋の月と、颯々と吹く清々しい風。明月と清風がお互に主となり客となり無心に向いあっている。まさに枯淡の境地を表現している語句。

筆力を内蔵して、しつとりと落ち着きのある線質で表現してみました。上滑にならないよう、扁平にならないように注意しました。書く速度は、"ゆっくりと、ゆつたりと"を念頭において試みました。

筆は兼毫・中鋒を用いました。

明月清風
よみ (めいげつせいふう)

書体=楷書



かな規定 初段以上【十一月二十日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可) 黒川江偉子選書

習い方解説 (一)

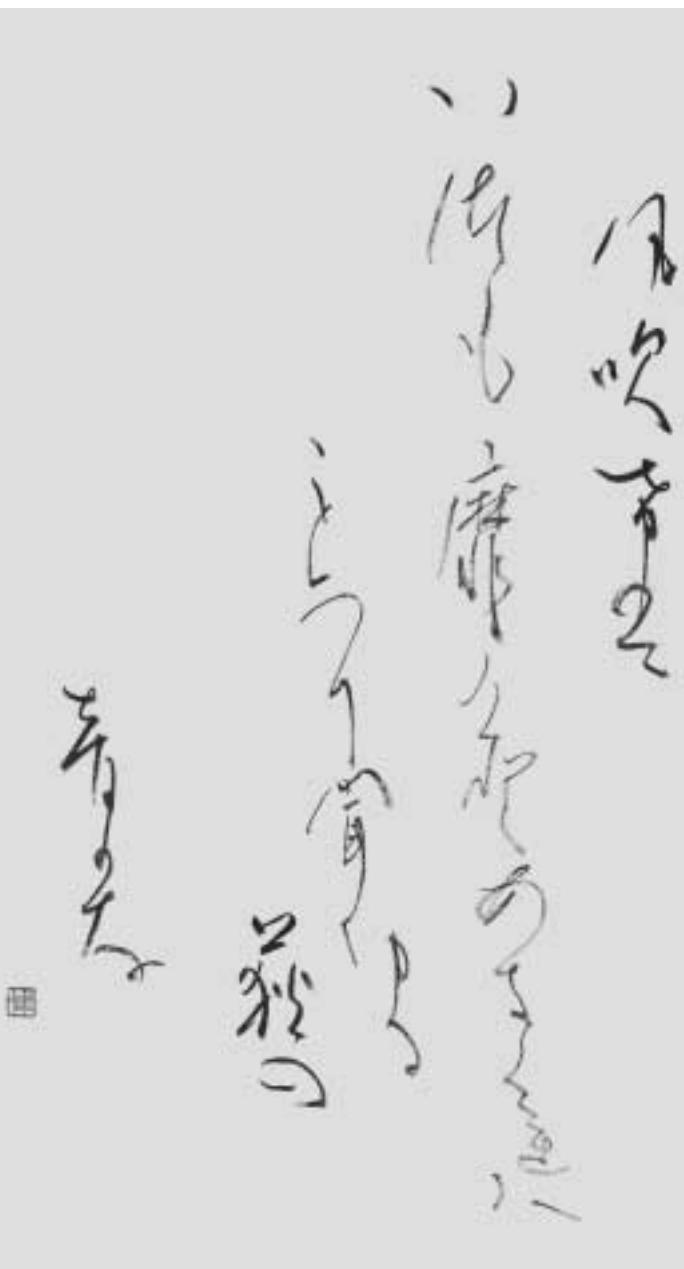
黒川 江偉子

かげふ
風吹けば いつも 風
けいひ
いふなび
けれど 秋くれば
きゆう
ことには
おと
に聞ゆる
わき
萩の音かな
わきのね

(和泉 式部)

10月になり、まさに風の音は秋となりました。

この歌も、風が吹けばいつもなびいている萩の葉音が秋がくれば、心にしめてもの悲しく感じられるという歌です。先ず書く前にどの様に散らすかを決め、紙面に筆をおろします。この位置が構成に一番重要な所です。その一行目に、二行目はどうのように対応するか、さらに三行目はと、考え楽しみ乍ら創作して見てください。墨の潤渴も大切な景色です。



よみ方

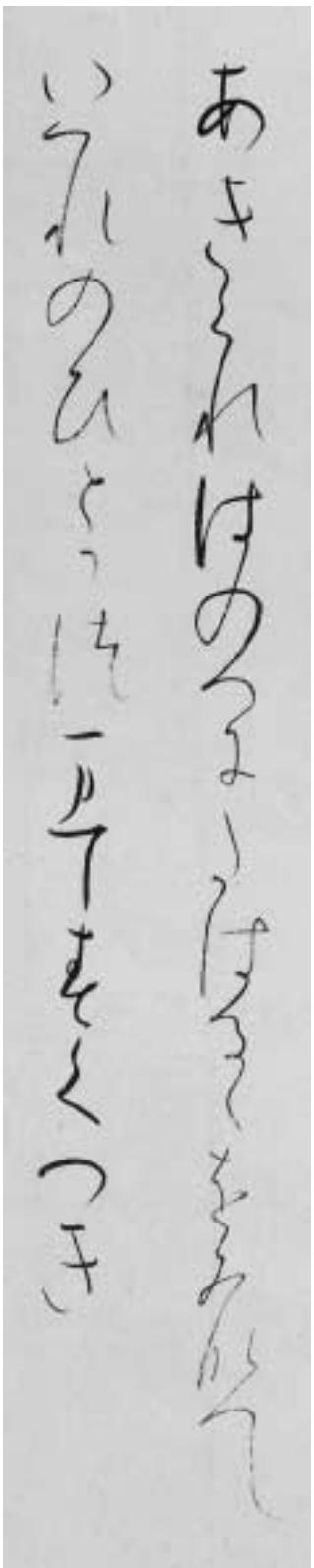
風吹け(希)ば(盤)いつ(徒)も靡け(介)と(登)あき(支)ぐれ(連)は(八)
ことに(耳)聞ゆる萩の音か(可)な(奈)

創作

かな規定 秀級以下 【十一月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 あきく(久)ればのべに(尔)た(多)はるゝをみな(那)へし
いづれのひとか(可)つ(徒)ま(万)です(春)く(久)べき

習い方解説 (一)

平川 峰子

平川 峰子選書

かな条幅規定【十一月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

薄霧の籬の花の朝じめり秋は夕
べと誰かいひけむ
(新古今和歌集 藤原清輔)



創作

よみ方 うす霧の籬の(能)花の(乃)朝じ(志)め(免)り(里)
秋は(盤)夕べと(登)た(多)れか(可)いひ(比)け(希)む

書き出しの「うす」は潤筆で小さ目に。二行目「秋」は渴筆で大き目に。墨つぎは「た(多)」で。二行構成にしたが霧・籬などの漢字を変体がなに置き換えて三行の構成にしてもおもしろい。

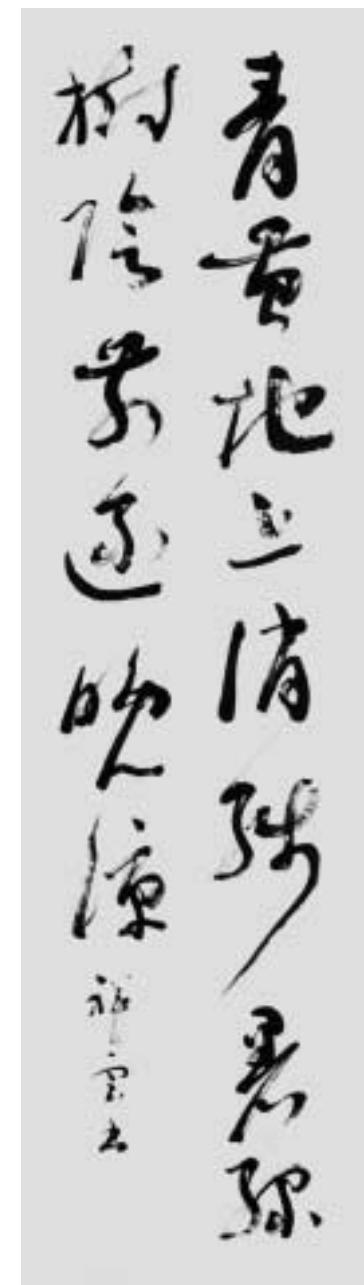
*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【十一月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

大野祥雲選書

習い方解説 (一)

大野祥雲



青苔地上消残暑 緑樹陰前逐晚涼
(青苔地上残暑を消し 緑樹陰前晚涼を逐う)

書体=自由

青苔のしきつめたあたりには残暑も消えさせ、夕暮れ近く緑樹の陰に涼を追う。唐・白居易詩。
こうした作品は落筆まえにしっかりした草稿を練っておくことが大切。今回はなるべく連綿線を省略、左右の呼応、文字の大小などは考えました。

漢字条幅規定 秀級以下【十一月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小川弘舟選書

習い方解説 (一)

小川弘舟

今月から六回担当します。
条幅作品づくりには、恩地理事長が、「書道芸術555号」の特別昇級試験の総評で「臨書は創作の母」と題して書かれています。よく読んで参考にしてください。

今は、「山東省摩崖」鄭道昭の楷書を参考に秋の句を書いてみました。藏峰で、のびのびと雄大に書いてください。

書体=自由
(雲高く氣静かなり)



漢字条幅規定 秀級以下【十一月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小川弘舟選書

習い方解説 (一)

小川弘舟

書体=自由
(雲高く氣静かなり)

ペン字規定【十一月二十日締め切り】

阿部珠翠選書

阿部珠翠

習い方解説（一）

秋の千草とよみつて、秋の野には、
たくさんの方が喜ります。
皆さんには、秋の千草を知っていますか。
これは、和歌によまれています。

萩の花 尾花 クズ花 やくひの花
をよなへしまだ藤ばかまやくかほの花
とよのす。久保田淳
「千草の歌」より

用紙はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

*落款を入れ忘れないようにしてください。
さい。（落款は自分の名前を入れてください。）

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花
女郎花 また藤袴 朝貌の花
と詠まれています。
五七七・五七七の旋頭歌です。

ペンを軽く握ると、余分な力が抜けます。ご自分のリズムを大切に書いてみてください。

今月から、担当することになります。どうぞよろしくお願ひ致します。ペン字は、日頃、伝達のために書くばかりで、このようにハガキ大に、一つの作品?として仕上げたことが無かったので、参考になる内容になつてますかどうか……。

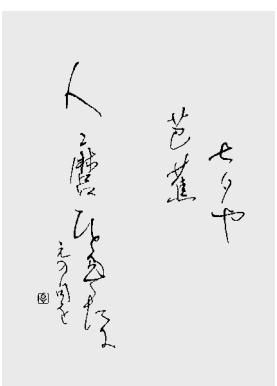
毛筆のリズムを思い出して、いつもよりゆっくり書くよう心掛けました。この和歌は、「万葉集」山上憶良の作といわれています。

今月の

木一プロ作品 各部総評 No.555

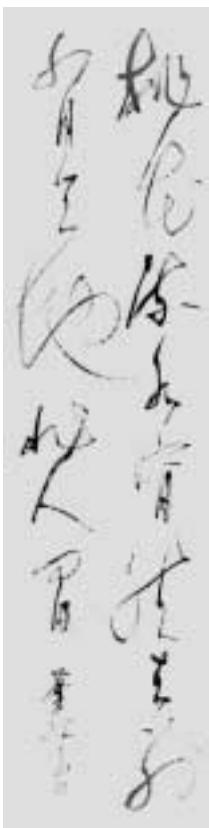
かな部 師範 曽我 昌子
 すべてに心が行き届いた完成度の高い作品です。この上は、どこか破綻の更なる魅力を期待します。

◎**かな部総評** 困難な課題を各自工夫され、斬新な作品が多くかった。一方、字粒の過大過小でかなに反した者も多く残念。(明子評)



かな条幅部 春汀 吉田 泰子
 やや文字が小さいが婉やかなりんで、筆遣いも熟達した雰囲気です。特に渴筆の韻致が美しい。

◎**かな条幅部総評** 文字を変換するときは原文のかな遣いに注意して下さい。今回は免(め)の誤字が多かつたので確認を。(洋子評)



漢字条幅部 師範 千葉 華紅
 佐理の風を学んでのびやか、紙面を駆けめぐって光を撒き散らす。精神面充実して大成を祈ります。



◎**漢字条幅部総評** 参考手本は、基本的な表現技法を中心としたものや表現の方向を示唆したものがある。ねらいを間違えず。(春洋評)

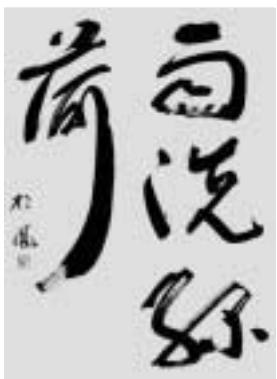
ペン字部 師範 永瀬 蓼汀
 ウィーンは音楽の都、森の都とよく言われますが、私は建築の都と呼ぶのもふさわしいと思います。ギリシャルネサンス・ゴシック様式の建物が観光客の目をくぎづけにして離しません。ウィーンの風より 蓼汀書

前衛書部 特選 角田 悠香
 凤凰が舞い上がる一瞬を想像させる作。淡墨による躍动感と静寂さが巧みに表現された最高の作品。

◎**前衛書部総評** 淡墨で墨色に工夫された個性溢れたすばらしい作が多い。紙に一考望む。(洞仙評)

現代詩文書部 特選 佐々木青霞
 墨色は作品の命、そして墨色が美しく出る紙を選ぶのも大切。それが見事にマッチしたい作品。

◎**現代詩文書部総評** 墨色も美しく印泥の色も調和した作品が多く見受けられました。(蘭華評)



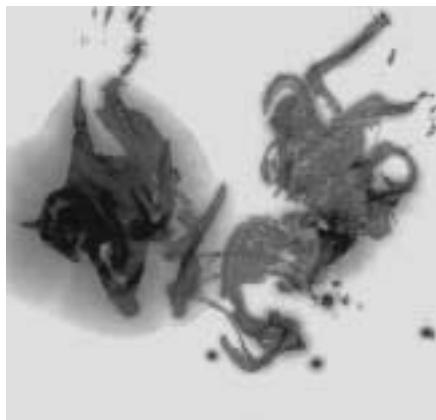
漢字部 師範 鈴木 松鳳
 切れ味よく爽快な作。配字の妙も自然で広がりを感じる。荷の終が印象的で、落款もまとまつた。

◎**漢字部総評** 上級課題つまりある作多いが、もっと懷抱広く表現を。下級楷書着実だが更に古典学習による多様さを期待。(大雪評)



今月の

特別研究品部
優秀作品九（特選）



浅野彩紅書

前衛書

(蓮紅) 浅野彩紅

「F L Y」

◆宿墨の溜りが沈んで幽玄な世界を生み出した。右辺はもう少し簡略にしてもよくなかったか? 淡墨の扱い方に慣れれた作品で次作期待。

(春洋評)

◆三×三の紙面を存分に生かした動きに注目。

墨溜りの濃淡と広がりあるにじみが響き合つて不思議な空間を作っている。印は「考を。

(大雲評)

◆動きを凝縮させ密度を高めた手法は、淡墨の妖艶なにじみと相俟つて魂が蠢いているかのようだ。墨の分量に工夫あつても……。

(洋子評)

◆墨の変化を筆の動き乗せて変化させている技術はすばらしい。右侧の線が細かくわかれているが、もし落款の位置を一考すると変るかも。

(倫子評)

かな (上泉)

太田玲子「千載和歌集より」



太田玲子書

総評

国立博物館、三井記念美術館、書道博物館の三館共同の拓本展示、鑑賞に行かれた方も多いと思う。私見

<特選候補者>

◆小気味よい筆致が軽妙なりズムを醸し出し、潤渴のバランスもよくまとまりある作。上下二段に二首の構成も自然で技術の高さを感じる。

(大雲評)

◆直筆でキリッとしたタッチの緊張感はよいが、加工の強い紙の性質を考えて、さらに呼吸の緩急を研究してほしい。印がやや強かった。

(洋子評)

◆筆の動きに無理がなく流れる様な美しい線を表現している。体を全部使つて細い字の中に一緒に歌と共に動いている楽しさを感じる。

(倫子評)

◆何よりも響きの強い線を賞したい。

若々しいタッチで快い音楽を奏でていよい。全体には線をもつと簡略にできな

いものかと考えたりした。

(春洋評)

◆だが三井の展示がやはり群を抜いていた。財閥の富の象徴かもしれないが、その財産をこのような拓本に遣う心意気がすばらしい。同じ宋拓でも別の拓がいくつかあり三井高堅は真に書を、そして法帖を大切にしていたのかとその深い愛を感じた。書学の徒はかくありたい。碑法帖は見ていて飽きることがない。目を洗って古典と向き合うことで創作の原点を見つめなおそう。

◆今回も79点(漢20、か7、現31、篆1、前20)上位は常連が多い新人の出品を期待する。

(蒼玄)

前翠苑	現翠苑	現炎佳	か玄穹	漢墨宣	漢一弦	漢木村	漢貴衣	漢洋龍	漢小林	漢龍泉	漢大雲	漢長島	漢佐藤	漢華炎	漢千葉	漢紅雪	漢游水	漢荒川	漢空華	漢蘿
四谷	木原尚子	木原翠夢	木原麗柳	木原鈴木	木原翠夢	木原麗柳	木原鈴木	木原翠夢	木原麗柳	木原鈴木	木原尚子									

※次回の募集より、作品寸法は、毎日展公募サイズ以内となります。大きくなりすぎた、多種の大きさになるので、ふるって出品下さい。(現在寸法も可)



高橋 小汀書

漢字

(舍人会) 高橋 小汀

「澄心靜虛」

◆二字目の線の動きが大きくすばらしい、その為上の「澄」がもう少し澄んただ表現出来たら作品が全体に大きくみえるのでは、印だけにしたら。(倫子評)

◆懐広く、白を大きく囲んで豊かさを見せる。下の「静虚」画数が多いので省略を利かせたかった。「澄」のサンズイ少し無理、筆小さいか。(春洋評)

◆長峰一本組による表現か、破筆と潤渴の変化が明快で印象的な作品である。「澄」の字形ややひきしめすぎたのか下部とのバランス一考を。(大雲評)

◆たまたま下部が複雑のため全体のバランスに少々無理があるが、厳しく鋭いタッチで生み出す表情が豊かだ。落款がもの足りなく映る。(洋子評)

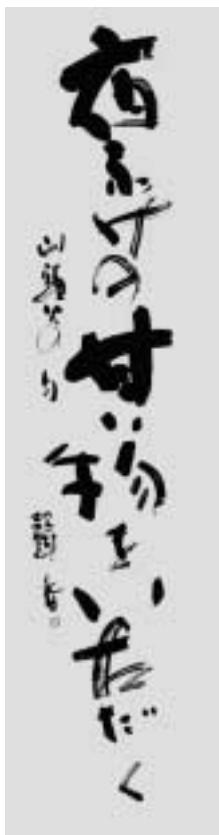
◆題名からワルツをイメージするが、やや強烈な書き出しから下部の軽やかな筆致のリズムは南欧あたりの明るさを感じる。上部やや重すぎか。(大雲評)

◆非常に巧く創ったという印象。少々收まりすぎたと思うのは欲張りか。特に終演に向かう動きの繊細な配慮に、創作者の柔軟な心情が透く。(洋子評)

◆上部の線の太さが全体を重くしてしまい下のリズム的な動きにマイナスになつた様、固くならずに流れる様な美しさが表現出来たら如何。(倫子評)

現代詩文書 (声香)
米倉 聲香

「山頭火の句」



米倉 聲香書

前衛書

(四谷) 角田 悠香

「舞踏会」

角田 悠香書



◆ドンとした大らかさが目を引き、明るいとぼけた朗らかさに無邪気さを見る。個々の線はやや甘さがあり、この趣でさらに内容の豊かさを。(洋子評)

◆息の短い筆法で、小さい筆一ぱいを使った。面白さと甘さを同時に持ちあわせている。表現方法の一つとして拝見した。(春洋評)

◆濃墨を使ってはずむような詩を感じる心境は何処から来るのだろうか、詩の持つ文字の楽しさから来るのか見ていて楽しい作品でした。(倫子評)

◆息の短い筆法で、小さい筆一ぱいを使つた。面白さと甘さを同時に持ちあわせている。表現方法の一つとして拝見した。(春洋評)

◆大らかなこだわりのない表情が魅力。逆にいえばやや単調で深味がないともいえるが率直な書きぶりと落款の味わいが明るさを醸し出している。(大雲評)

漢字研究部
(樂毅論)

選評 村野大仙

今月のホープ作品

夫求古賢之意而以
大者遠者先之必迂
回而難通然後已焉
可也今樂氏之趣或
者其赤盡乎

尾形紅霞

漢字研究部 特選 尾形 紅霞
光明皇后の樂毅論と言えば日本の古典の最高峰に値するのではと評価の高いものです。
◎漢字研究部総評
筆鋒を突き立てながらの丹念な運筆から生まれた筆意は群を抜く。品位の高い秀作で敬意を表します。



真彩雅趙匡和
生子華邦辰子子

正和惠完翠春
江美泉治徑清

惠卿笑翠抱美
子舟華園遊子

須蒼彩聲光青
寿峰雨香子山

だが、これは王羲之の書いた樂毅論を臨書したものである。だからこの書には羲之の筆意が写し出されていると言つてよい。肉筆そのもので残されているこの書は、羲之を学ぶ良き道しるべと考えてもよいと思います。ところが、今回審査を担当してみて意外と手をつけておられないよう見受けられ残念に思いました。用筆の基本をおろそかにしていないか、よく考えて学書に取り組みましょう。

漢字研究部 特選 尾形 紅霞
終始一貫、弛むことのない勁い筆線が全体を引き締め、緊張感みなぎる作品となつた。筆鋒を突き立てながらの丹念な運筆から生まれた筆意は群を抜く。品位の高い秀作で敬意を表します。

だが、これは王羲之の書いた樂毅論を臨書したものである。だからこの書には羲之の筆意が写し出されていると言つてよい。肉筆そのもので残されているこの書は、羲之を学ぶ良き道しるべと考えてもよいと思います。ところが、今回審査を担当してみて意外と手をつけておられないよう見受けられ残念に思いました。用筆の基本をおろそかにしていないか、よく考えて学書に取り組みましょう。

書道芸術院創立60周年記念

役員作品巡回展

併催 第12回九州支局展

会期 平成19年7月25日(水)～7月29日(日)
会場 大分市アートプラザ

外はうだるような猛暑、会場は役員の先生方のすばらしい作品に対する猛感動の中、盛大に開催され、多くの方に御来場いただき、深く感謝申し上げます。展示作品の総数は、役員作品を含め102点でした。今回の展覧会の特徴は、支局員の作品規格を半切以内と限定し、役員作品の展示にゆとりをもたせました。日頃「社中展」「同ジャンルの展覧会」は開催されますが、今回のように、あらゆるジャンルの作品しかも、最高峰の作品を一堂に見ることは、ほとんどありません。来場者から「前衛書は、はじめてです。よくわからりませんがおもしろいです。」等の声が多數聞かれました。ゆっくりと味わうことができたと感じています。

次は、メディア等との連携です。NHK・大分合同新聞社・毎日新聞社・大分県・市教育委員会等に御後援いただき放映や記事等にしていただき、本院の内容や活動等が多方面にご理解を得たと確信しています。また、本院からいただいたパンフレッ



会場風景



祝賀懇親会では、浜田(堂光)常任
総務・前田総務にもご参加いただき、
また、メディア関係者・教育委員会・



(九州支局事務局長 児玉範光)

さて、25日に恩地理事長・辻元常務理事・浜田(一堂)理事・小竹評議員に「作品の背景・意図等」の講評をいただき参考になりました。



書道芸術院創立60周年記念 役員作品巡回展
併催：第12回九州支局展
平成19年7月25日 於：大分第一ホテル

ノルの作品を見ることも大切ですが、単位認定講習会などに参加し、学書を深めることができます。(3)九州支局の会員を増やし、組織の強化を図ることです。福岡県・大分県が主となっていますが九州内の他県の会員にも声をかけ、輪を広げていくことが急務です。(4)最終的には、会員一人一人の力量を高めることです。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった(財)書道芸術院本部・関係者・御来場いただいた方々に

お礼と感謝を申し上げます。

競書出品規定

11月
20日

●研究部
(審査会員は出品不可)

ペン字	かな条幅	漢字条幅		か な		漢 字		部門
10 ～ 級 範	10 ～ 級 範	秀級 以下	初段 以上	秀級 以下	初段 以上	秀級 以下	初段 以上	段級位
サイズ はがき	も (料 紙 可) 半 切	半 切	半 切	も (料 紙 可) た 半 紙 紙 ½	も (料 紙 可) 半 紙 紙 ½	半 紙	半 紙	用 紙
書 体 自 由	創 作	創 (書 体 自 由)	創 (書 体 自 由)	臨 (写 真 揭 載 部 書 く)	創 作	創 (書 体 自 由)	創 (書 体 自 由)	書体・内容

●前衛書部 現代詩文書部 審査会員は
半紙縦使用に限る、一人一点
(両部門に出品できる)

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
平成十九年九月二十五日印刷行

(毎月一回
一日発行)

書道芸

第五五八号

特 别 研 究 作 品

特 別 研 究 部		審査会員も出品可	出 品 資 格	用 紙	内 容
「特別研究作品」出品券を貼付 きない	※バーコード出品券は使用で	誰でも 出品可 (審査会員を含む)	毎日展 内(2×6尺以内) 公募サ イズ以	漢字・かな・ 現代詩・篆 刻・前衛書	の各部門を 含んだ創作 作品競書
自由	※今までのサ イズも	※今ま 内)※各部を通 じて一人 一点。	影に落款を 入れて応募	影に落款を 入れて応募	
刻字は不可					

●特別研究部（審査会員も出品可）

かな研究	漢字研究	部門
候補会員 は不可)	審査会員 は不可)	審査会員 は不可)
(審査会員 も可)	半 て 紙	半 て 紙
所は不可)	掲載の古筆 の臨書、歌 一首以上を 書く、全文 も可(掲載部 分以外の箇 所は不可)	掲載の古典 の臨書、文字 数自由(掲載 部分以外の 箇所は不可)

* パーコード出品券についてお願ひ
* 作品からはがれないよう、右下
にしつかり貼り付けてください。
* 月別出品券の部別を間違えないよ
うに貼ってください。
(※ステイックのりはがれやすい
ので、ヤマトのりを「使用ください。」)
* 記入する数字は、
 級位は算用数字 1、 2、 3…
 段位は漢数字 初、二、三…
 で書いてください。
* 級位の方は、出品する月の本誌
(最新号) で成績を調査確認の上、
 級を記入してください。確認できな
 いときは、現在級を書き「未調査」
 と明記してください。

四 「締切後着」・「段級不明」・
「課題違反」・「落款なし」
の作品は審査対象外とし、氏
名を掲載しません。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
101-0031 東京都千代田区
東神田一ー六一七
神田芝崎ビル三階
財團法人書道芸術院
電話(03)三八六二ー一九五四
FAX(03)三八六二ー一九五七
お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間に
お願いします。(土・日・祝日は休み)

平成十九年九月二十五日印刷
平成十九年九月一日発行